

## アンケート用紙 ①基調講演のご感想をお願いします！

### 1) 「すずめの家」の経緯、活動の様子を聞いて。

- 公民館に行けば誰かに会える。この事がとても大切だと思う。自分たちが参加してみんなで支え合うことの意義を感じた。  
受け身だけでなく、自らもなにか出来るのか。何も出来ない人はいない。例えば、いつも笑顔でいることも素晴らしい、地域のボランティア活動は信頼関係が大切。それを改めて感じた。
- 地域の人々が安心して穏やかに過ごすことができる活動だと感動した。
- 住民達がサービス提供を行っているため、住民のニーズに合ったものが行えており、良いと思う。
- 年を取ると出会いの場が欲しい。
- 認知症に対して理解されている。
- 他人から与えられた場所(もの)よりも、自分たちで何かを見つけ楽しみながら活動していくことの大切さを感じることができた。
- サービス利用者がいつでも利用できるよう家を借り、自分たちでバザーを行って集めた資金で家賃などの経費を賄い、行政に頼らないで活動していることは大変素晴らしい。
- 老人クラブ等で活動できない、行き場のない老人に居場所を与えている。
- すずめの家の活動で、公民館に行けば誰かに会うことが出来るということは高齢者にとってとても良いことだと思った。高齢者も一人ぼっちにならなくてすむと思う。
- 暮らしのサポーター養成セミナーを受け、中津市での活動は聞いていたが、実際に話を聞けて良かった。
- 竹田市が今後取り組む時、中津市の事例が大いに参考にあるであろう。
- 補助金から立ち上げたのではなく、自分達でコツコツと準備計画して叶えた家と聞き、とても暖かい場が想像できる。生きがいサロンとは違い、高齢者が自らも料理をしたり当番になったり、人の為に動くということは元気の源になっているのだろうと思った。居場所があることはとても大切だと感じた。
- 行政の行う枠から漏れる人達のサポートだと思う。元気な高齢者の居場所として役割(仕事をしてもらう)から、幅広い人達へのサポートまで行っているが、自分地域の情報を知ることも必要だと思った。  
活動が先なのか、なにが必要なのかを知ることが先なのか…。
- 早くからの取り組みと活動、行動を起こしたことは素晴らしいことだと思う。
- まずは心で寄り添うことから。案じていても前には進めない。
- 身近なところからの活動を通じて、着実に実績を上げていることに敬意を感じた。しっかりした考えを持っていることを感じた。
- 吉田講師の話は大変良いことだと思うが、やはり健康で能力がないと人のお世話は出来ないと思った。
- 名前が素晴らしい。行政の下ではなく、自分達で立ち上げ多くの苦勞があったと思われる。
- 長い準備期を費やして現在の成功があると思う。
- 仲間づくりの大変さがよく判った。
- “そこに行けば誰かに会える”単純な発想が成功したのだと思った。
- 平成元年、「久住地域で給食サービスを」と考え、職員の中で少しずつ気持ちが芽生え始めてきてやっと何人かへのサービスが出来始めたのもつかの間、立ち消えた事が思い返され、残念に思う。  
地域を巻き込んで続けて来た「すずめの家」の活動に頭が下がる。
- どこの市でもなかなか出来ないことだが、大変参考になった。

- 行政に頼らず、補助金等、自分達でできることを実践している活動方式は当市でも大変参考になる。
- 地域公民館は人と人の繋がりづくりの場である。
- 何事も始める時は手探り状態であり、苦勞も多かったと思われる。
- 地域の思いやりが大切。自分達で苦勞すれば長続きする。色々な交流で人と繋がりを大切にしている様子が伺えた。
- 吉田講師の話を聞いて、85歳の自分が今からでも何か頑張ってみようかと思った。
- 「誰かがしてくれる」ではなく、自分から立ち上がらなくてはならない。一人暮らしをしていると、誰かと話をすることが大切だと痛切に感じた。
- “誰に対しても開いている場所”というのが素晴らしい。
- 相手の気持ちを十分理解して行動しているように思う。高齢者にもよく気を配っている。
- 中津市の人達の素晴らしい活動に頭が下がる。
- 地域住民のニーズを把握すること。継続の重要性を感じた。継続することが地域に広がりをもたせること。
- 是非、竹田市でも同じような活動、取り組みを行って欲しい(行きたい)。
- 色々な問題を乗り越えてきた精神力はすごい。

## 2) 「住民型有償サービス」の経緯、活動の様子を聞いて。

- 「りんどう」とはどんな事をしていくのが、理解できた。有償であることも理解できた。
- これからの高齢化社会に必要なことだと感じた。
- 最初は小さな活動でも、継続することでしっかりとしたものができる、ニーズに応えられるものを作り上げていったのを感じた。「りんどう」もしっかりと地域に根差したものにしていってほしい。
- 有償サービスは必要。有償の場合の内容、仕事量、資格の有無。  
有償の方がお願いしやすい場合がある。専門職によるサービスも必要である。
- わかりやすかった。今後、どの地域でも必要になると思う。
- 有償でもサービスを受けたい方の為に発足されたサービスで、ボランティアとして有償サービスを提供できるように努力することが必要。年齢に関係なく、自分に出来るサービスで利用者のニーズに対応できる、双方にとってメリットが多いのではないかと考えた。
- 無償では責任感がなく、長続きできない。サービスを受ける方、提供する方、双方にも良いと思う。
- 久住地区にもより良い暮らしのサポートセンターが生まれ、育つことを願います。
- ヘルパーとの関わりはどうかと少し心配はあるが、中津市での社協の連携がよく取れていることに感心した。
- 高齢化が進む中、公的サービスではできない事を「触れ合い」、「支え合い」の中でより細かいサービスを受けられることは素晴らしいことだと思う。
- 基本が大切である。理解⇔信頼関係⇔安心感(基本的人間関係)
- 義理堅い高齢者にとって、有償サービスはとても良い方法だと思う。無償だとありがたいけどどうしても遠慮してしまうだろうし、少しでも決められた代金を支払うと何度も気軽にお願いしやすい。
- 理解、信頼関係、安心感を与える事。
- 場づくりが大切であるとわかった。
- 寄り添った支え合い、共助、地域コーディネーターの役割、ネットワークの構築。
- 有償だから出来るという気持ちと、有償にするまで長い間の積み重ねで住民(利用者)との信頼関係と公的機関だけではなく、利用者も含めたサービス会議が安心感を与え、絆を作っていると思う。スタッフの年齢も利用者の安らぎにもなっている。
- 現在の自治会がこれから先はかなり減少すると思う。デイサービス⇒家庭で看る人がいない人には絶対に必要だが、年金(国民年金)受給者は出費が大変なのではないかと思われる。
- 今後の参考にしたいと思った。続くにはお互いの思いやりと協力だと思う。
- 対価とサービスの量などとの兼ね合いについて、問題起きなかったのだろうか？
- 有償だから長く続いたと思った。住民であり本当に必要なものが見えたことは本当に素晴らしい。
- 福祉に関する活動は、ボランティアを基軸としている場合が多いが、有償サービスにすることで高齢化社会の中で継続した取り組みになることを認識した。
- 無償、有償の代金を決める時は本当に色々な問題があったと思う。
- 地域の問題を地域の方々が共に支え合う仕組みが非常に重要だと感じた。
- 現在地域にあるサービスと重複しないのか心配ではある。
- 竹田市も中津市の活動を見習いたい。
- 公的サービスの限界を埋め合わせる意味から、有償サービスは意味があると思う。  
関係スタッフには、無償とは違った心構えを醸成することが重要と思う。
- 気持ちの問題が大切になってくる。同じ気持ち・意欲のある人が寄り添い活動出来ると良いと思う。
- 地域に合ったサービスの提供が必要だと思った。

### 3) 「基調講演」全般をとおして。

- 講演の内容から自分の両親が高齢社会のど真ん中にいることを痛感した。他人の世話はなかなかできそうにないが、まずは両親との対話からやっていきたいと感じた。
- 沖代すずめの代表の吉田講師の人柄が良い事でこの活動が大変うまく運営されているのだと感じた。
- 何事も状況で諦めるのではなく、自分から進んで参加していくことで新しい発見ができ、周囲とのかかわりでお互いを認め合い高めていけるのだと気づかせてもらった。無関心ではなく、地域の方との寄り合える場所が必要だと改めて感じた。
- 様々な苦勞をされながら今日に至っていることに感銘を覚えた。  
私も高齢者だが、竹田市のボランティア活動のお手伝いをしたいという気持ちになった。
- 「顔の見えるネットワーク」いい表現だと思う。無責任ではいられない関係、安心した関係を築きたい。  
地道な活動をコツコツと続けられたことに感動した。  
お金に換えることのできない人とのつながり、人とつながること、今の時代だから必要だと思う。有償サービスに移行する経緯を聴き、ボランティア(無償)では無責任ということに気付いた。お金を貰うことで責任ある仕事に携わっていると意識することは大事だと思う。
- 自身が実践してできたことを話されたのでわかりやすかった。
- 45歳に活動を始めて本格的には50歳からの取り組みに感動した。  
『ボランティアは楽しくないと続かない。有償サービスになってもボランティア精神が一番』という言葉が印象的。吉田講師の人柄にも感銘を受けた。  
高齢者にとって社会的な役割と居場所があることが幸だということ、本当に共感した。寄り添いから始まった「すずめの家」から十数年、住民達の地道な活動が今では行政や関係機関を動かし、なくてはならない存在になっており、大変な功績で尊敬する。
- 再度、地域の姿を觀て、知って、どうしていきたいか、どうあったらいいのか考えさせられた。
- 良い面を引き出していくこと、共に気付くことを大切にする。  
(聞く、見る、答える)、(聴く、觀る、応える)共通理解する。住民感覚が大事。
- 継続することの大切さを知った。仲間があって出来ることだが、まずは2人の熱い思いが必要。少しの人数からでも始めたいと思った。
- 高齢化が進む地域社会、地域みんなで支え合うことの大切さを事例にてわかりやすく示してもらい、これからの竹田市にとっても必要であることだと感じた。
- 理解⇔信頼関係⇒安心感が出来る。長寿の期間。
- サポートしていく意識を持つことは大変な事だと思う。ボランティアの意識、地域を良くしたいという意識、みんなで作るという意識をもつことはなかなか難しい気がしたが、行っていることは素晴らしいことだと思う。  
○最後に人間関係の信頼が必要と強調されていたことが基本であると思う。
- スタッフ集め、何事も一から手作りでの立ち上げは本当に大変だったと思う。
- 地域のひととの信頼関係の上に成り立つボランティア活動の様子が良く理解できた。
- 年を重ねてからの役割を見つけることの大切さ。長続きする為の有償ボランティア。何をやるにも10年の年月は必要かと思う。自分にこれから何ができるのか考えてみたい。
- 取り組みの実践を通じての講演であり、今後の活動の参考になった。
- 20年後30年後のことを考えると、人間関係や生きがいなど、「りんどう」、「沖代すずめ」の活動はとても大切な事だと感じた。
- 吉田講師が笑顔で話されている姿がとても印象的だった。
- 地域では色々な技術を持っている人がいるので、寄り合せて一步一步進めたら良いかと思った。
- 講演を聴きながら、久住の場合、どこへ顔を出しても限られた方に出会うだけなので、多くの人が集まってくる心づくりが必要ではないのか。

- 自分達で立ち上げた実力、力強さ本当に身に染みた講演だった。
- 何もかも行政に頼ることから、地域住民の支え合いで生活が出来れば素晴らしいことだと思う。
- 「沖代すずめ」「沖代どんぐりサービス」の連携など、より詳しく聞けたら良かったと思う。
- 家族の協力、地域の協力。吉田講師の人間性で続けてこれたのだと思う。